

＜ もくじ ＞	
1. シニア社会塾：第2回講演会の概要報告	1～2
2. 2018年連続「読書会」第1回のお知らせ	2
3. 第4回研究会合同イベント「終わった人から、始める人へ」開催のお知らせ	3
4. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム開催のお知らせ	3
5. 研究会からのお知らせ	3～5
6. 各研究会の概要報告	5～6
7. JAASマーク、会員番号入り特製名刺作成のお願い	6

1. シニア社会塾：第2回講演会の概要報告

- 1) 日 時：2017年10月28日（土）14：00～16：30
- 2) 場 所：駒澤大学1号館202教室
- 3) 講 師：木村利人さん（早稲田大学名誉教授、ジョージタウン大学ケネディ倫理研究所・特任
研究員、元恵泉女学園大学学長）
- 4) テーマ：戦争・平和・いのちを考える ～態度に示そう Creative Aging～

人生の一大転機

私にとっての一大転機は、1959年5月早稲田大学の大学院生だったときに、マニラ北方のダグパン市でYMCAによるワークキャンプに参加したことでした。戦時中、山梨に疎開し、東京大空襲で家は焼け、親戚には戦死したり、シベリア抑留した者もいます。戦争被害者としての意識しかなかったのに、フィリピンでは100万人が殺され、キャンプ仲間の中には日本兵に家族を殺された人がいることを知って、大ショックでした。日本人は加害者だったのです。キャンプ仲間たちと読んだ旧約聖書から「幸せなら手をたたこう」という歌が自然に生まれました。この歌は坂本九ちゃんが歌ったおかげで、世界中に広がりました。



ベトナム戦争とバイオエシックス

1970年から2年間、ベトナム戦争の最中にサイゴン大学で教えました。ベトナムの学生から魚を食べることの危険性を指摘され、枯葉剤の恐ろしさを知りました。枯葉剤による被害に直面し、それまでの法学研究からバイオエシックス（生命倫理）研究へと大きく舵を切り替えました。いのちの問題を専門家に任せては大変なことになると考え、いのちの発生から終焉までを学際的に扱うバイオエシックスという新たな学問領域を創り出しました。

早稲田大学人間科学部の創設に関わり、日本で初めてバイオエシックス講座を設けました。2000年には早稲田大学の学生と一緒に、ベトナムを再訪しました。障害のある子どもたちに出会い、枯葉



剤の影響が次の世代へと引き継がれている実態に直面し遺伝子戦争の危機を痛感させられました。2012年にピースボートで世界一周をした際の最初の寄港地は枯葉剤救済センターのあるダナン。ピースボートにはベトナム戦争に従軍した米兵の孫も乗っていました。

Creative Aging

アメリカにはマギー・クーンが創設したグレイパンサーという団体があります。彼女は定年退職を勧められたことに奮起してこの団体を創ったのです。AARPのような高齢者だけの団体と違って、グレイパンサーは若者との共生をめざし、年齢差別と闘っています。高齢者と若者は、地位や収入が不安定で、しがらみがないから社会の変革ができるのです。

いのちを大切に、未来に向けて幸せに生きていくための秘訣をあげます。① し：知ること。知的好奇心や知識欲があれば脳が活性化します。② あ：愛。エロス、友情、慈愛などいろいろあります。愛がなければ人は老けます。③ わ：輪。輪をつくり、広げることで、いつまでも元気でいられます。④ せ：世界に目を向け、世界とつながる。Creative で Challenging な世界を私たちが創っていきましょう。

参加者は41名（会員14名、非会員27名）。聴衆からは、「自分がこれから進む方向にヒントを得た」「高齢化問題について、わが身とわれらが社会の鏡を見せてもらったと思うほどに、話に引き込まれた」「『幸せなら手をたたこう』の作詞者なので、穏やかで幸せな人生を歩んでこられたと思っていたが、大変な経験と有意義な社会活動を重ねられたのですね」「命を大切にしない政治や社会になりつつある中で、命を超学際的に考えるバイオエシックスを知りました」などの感想が寄せられました。（袖井孝子 記）

2. 2018年連続「読書会」第1回のお知らせ

本学会が3か年計画で取り組んできた「持続可能な超高齢社会をめざして」という大テーマは、2018年に3年目を迎えます。1年目（2016年大会）は「現代日本の格差と貧困」の実態に目を向け、2年目（2017年大会）は、「分断社会を超えて」と題して、成長を前提としない経済、相互に支え合う関係《私たちの復権》という課題を確認しました。

その時点で、① 全国レベルのマクロの問題と对人的ミクロの問題をどうつなぐか、② 「人口減少社会」を視野に入れるべき、という問題が残されていることに気づかされました。そこで、3年目は、そのあたりの課題を念頭に、大会に向けて「読書会」を始めたいと思います。月1回のペースで、各回新書版程度の文献を1冊ずつ読んで行き、全4回を予定しております。

まだ詳細は決まっていますが、とりあえず、第1回読書会を以下の通り開催いたします。どなたでもご関心のある方は、お気軽にご参加ください。（企画委員会）

- 1) 日 時：2018年1月17日（水）14：00～16：00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局（渋谷パールビル4階）
- 3) 対象文献：NHK スペシャル取材班『縮小日本の衝撃』講談社現代新書、2017
補助文献：河合雅司『未来の年表：人口減少日本でこれから起きること』
講談社現代新書、2017

第2回以降の日程と文献については、候補を検討中です。次号でお知らせいたします。参加希望の方は、事務局までメールか電話でご連絡ください。

3. 第4回研究会合同イベント「終わった人から、始める人へ ～生き抜く力を考える～」

（「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポジウム）開催のお知らせ

1) 日 時：2018年3月3日（土）14：00～16：30

2) 場 所：駒澤大学 第2研究館 209

3) 参加費：1000円（学生 500円）

◆司 会：皆川 鞆一（当学会会員）

◆報告者：小平 陽一（当学会会員）

小石澤信男（当学会会員）

中村 昌子（当学会会員）

森木まゆみ（当学会会員）

◆コメンテーター：澤岡 詩野（当学会会員）

※ 申込方法等、詳細は次号以降でご案内いたします。

4. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム開催のお知らせ

「あれから7年～私たちはフクシマを忘れない～

—首都圏への長期避難者が抱える葛藤と課題—

1) 日 時：2018年3月17日（土）14：00～17：00

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室

3) 参加費：無料

◆司 会：長田攻一・松村 治

◆報告者：大坊雅一（東雲住宅避難者自治会「東雲の会」事務局長）

佐藤恒富（「NPO かながわ避難者と共にあゆむ会」事務局）

西城戸誠（法政大学人間環境学部教授）

◆コメンテーター：浦野正樹、伊藤まり、川副早央里

◇共催：シニア社会学会「災害と地域社会」研究会・早稲田大学総合人文科学研究センター

<現代社会の危機と共生社会創出に向けた研究>部門

◇後援：早稲田大学地域社会と危機管理研究所

※ 申込方法等、詳細は次号以降でご案内いたします。

5. 研究会からのお知らせ

（1）第50回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ（再掲）

1) 日 時：2017年12月21日（木） 15：00～18：00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) 報告者：駒宮淳子さん（医療生協さいたま生活協同組合・熊谷生協病院つながりプランナー）

4) テーマ：「つながりプランナーの仲間づくりはロコモ体操で」

地域で、つながりプランナーとしていきいきと活躍されている駒宮さんにその活動内容とチャレンジ精神をご披露いただきます。

5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）まで、お願いいたします。

(2) 第107回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年1月17日(水) 19:00~21:00
- 2) 報告者：平山 亮氏(東京都健康長寿医療センター研究所研究員)
- 3) テーマ：「息子介護：男の看方(みかた)、女の見方」
- 4) 場 所：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋I SPタマビル 8階

※ 開催時間が変更しております。ご注意ください。

※ ご質問がございましたら、佐藤まで。

090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

第106回「社会保障」研究会 訂正とお詫び

前回の研究会のご案内に際し、誤植がありました。訂正してお詫び申し上げます。

台東区山野 → 台東区山谷

(3) 第46回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年1月23日(火) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：伊藤 勝(江戸川大学名誉教授)
- 4) テーマ：「身を守る教訓とまず行うこと：“Scientific Knowledge in Seconds & First Actions Explained in an Instant”の作成について」
- 5) 参加費：500円(ただし、社会人を除く学生、早稲田大学総合人文科学研究センター<現代の危機と共生社会>研究部門および、早稲田大学プロジェクト研究所のメンバーは無料)

※お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

(4) 新設の研究会「ライフプロデュース」研究会(座長：皆川鞆一)のお知らせ(再)

「ライフプロデュース」研究会(座長：皆川鞆一・当学会理事):シニア社会学会に、新しい研究会が誕生した。発端は、皆川が学会機関紙「エイジレスフォーラム」第15号に書いた「団塊の世代」はどこへ行った?の特別寄稿。この記事の調査協力者の回答を分析し、協力者を含めた勉強会を月1回開催し、「人生100年時代のライフプロデュース」には何が必要かを計5回にわたり集中論議。そこで抽出された、3つのキーワードが「自立」と「共生」、この二つのテーマを包括する形での「共(響)感」である。

1. 【自立】人生100年時代の超高齢社会では、男女ともに、介護や看護、離職や退職、離別や死別に対応できる柔軟な危機管理能力が求められる。また、生涯未婚率、単身世帯率も上昇し、家族の在り方、パートナーシップの在り方も多様に変容している。そうした時代背景の中、「頼り合える社会」の基本として、「個々人の自立度=生き抜く力」が益々必要な時代となってきた。自立には「生活の自立」「経済の自立」「精神の自立」「社会的自立」があり、年齢が増すに従い、特に男性の「生活の自立」が今、重要視されている。性別役割分業から解き放たれた男女の関係性、「大人の為の生活学」を共に学んでいきたい。

2. 【共生】世代間に分断が見られる背景には、「成長社会」と「成熟社会」の間で、価値観・幸福感・労働観の顕著な相違がある。現役層を取り巻く環境は厳しさを増し、世代を越えて、互いの生きて来た時代に共(響)感し、「共生」できる身近な「居場所」の創出の仕掛けが必要であり、そこでは、シニア層の経験値を生かした活力が推進力となる。過去の共生の在り方を検証しつつ、現在の共生の場の具体例を観ることで、未来の共生の在り方についても思いを馳せ、意見を交わせる場を目指したい。また、「共生」の形には、自然との関係性、AIの進化の現況、伴侶動物との関係性などもテーマに取り入れていきたい。

3. 【共（響）感】

自立した個々人が性別、世代を越えて、意見を交わし合いながら共生し、世代間のプラットフォーム（架け橋）となることも、この新研究会の目指すところである。その基本となるのが「コミュニケーション能力」といえる。「エイジフリー社会」「多世代協働の場」の創出を目指すためには、それぞれの世代の生きてきた時代背景を学び合い、共感し、心が響き合うことが肝心だ。そして何よりも、一緒に楽しめる「ワクワク感」がキーワードと言える。全員参加型の実践的且つ双方向のコミュニケーション力向上の為のワークや、ICTの進化についての講義、若い世代の講師を招き、独自のサブカルチャーなど、一緒に学んでいきたい。

※ 第1回研究会の開催は、3月3日の合同イベント終了後になります。参加ご希望の方は、次号以降の研究会からのお知らせをご覧ください。（事務局）

(5) 「シニアのICT活用研究会」の開催について

次回以降の研究会開催は調整中であり、決まり次第あらためてお知らせします。

6. 各研究会の概要報告

(1) 第44回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2017年11月20日（火）18:00～21:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：松村 治（早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員、当学会会員）
- 4) テーマ：福島からの避難者のウェルビーイング調査から見えてくるもの

松村さんは、「心のケア」という用語の拡散とフクシマからの避難者の心理的現実とのギャップに注目し、健康心理学の立場から、「ウェルビーイング」という概念を用いて心の健康度を測定する手法を開発して、山形市、江東区東雲住宅、神奈川県（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市）に居住する避難者調査を実施しました。ところが何度も立場の異なる専門家によるさまざまな調査を繰り返されることも一因となって、避難者からの回答が十分得られなかったことから、その理由について説明したうえで、調査結果の報告をされました。

「ウェルビーイング」の要素として、①ネガティブ感情、②ポジティブ感情、③人生に対する満足度、④心理的健康、⑤社会的健康をあげ、避難者調査の結果、震災から6年半を経過した時点で、それぞれの項目の得点が低い人と好転した人の違いについて考察されています。震災直後の避難生活の状況にそれほど違いはないにしても、それぞれの人のパーソナリティやライフスタイルの違いもあり、ウェルビーイングの値の低い状態のまま引きこもり状態が続いている人が80%、多くの支援を得られる中でウェルビーイングの値が上昇した人が20%であることを指摘され、多くの人の値が低いことの理由を、故郷喪失感、生きがい喪失感に求めています。さらにウェルビーイングの値が低いことが、活動性の低下を招き、引きこもりとストレスを高め、さらにウェルビーイングの低下を引き起こすという悪循環になることを指摘されました。そしてこの連鎖から抜け出す方法を、避難者のライフスタイルの改善（自然とのふれあい、地域への関心、人との関係づくり）に求めて、支援者に呼び掛けています。

メンバーからは、故郷喪失感という要因について故郷経験がない人も多く、それを心理的健康度の要因として過大に重視することにならないかという意見も出されましたが、この調査は繰り返すことで、より広範囲の人の回答が得られるようになり、解釈の見直しや避難者の健康度の変化が行政を含む支援のあり方の改善につながるとの期待も寄せられました。（長田記）

(2) 第106回 「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2017年11月22日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：伊藤 憲祐氏(医師 プライマリ・ヘルス・ケア研究所顧問 あやめ診療所長)
- 3) テーマ：「在宅医療の現場から(在宅医療とは? 症例から一緒に考える)」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋I SPタマビル 8階

地方と都内の医療格差に疑問を抱きMBAを取得。貧困地域、山谷で在宅診療と無料の健康相談を始めた。医療ニーズの高い人ほど医療サービスを受けられない現実に直面し、プライマリ・ヘルス・ケアの重要性を悟り、その普及に努めるようになった。

在宅の現場ではシニア層への対応が極めて重要である。10個の心理的な特徴(環境変化に敏感に反応、プライドが傷つきやすい、生きたいという願望をもつなど)、5つ対応原則(高齢者のペースに合わせる、なじみの環境で介護するなど)、9つの注意すべきこと(プライドを傷つけない、納得がいくように話すなど)を紹介された。末期癌のナチュラルコースは良い看取りになりやすいように感じる。入院日数が短くなるよう工夫をすると寝たきりにならず、内服を吟味し5種類未満にすれば認知症や転倒がおきにくい。疾病原因の半分はライフスタイルにある。バランスのよい食事、運動を心がけ、人との交流を重ねることで、認知症をはじめとする病気が予防できることが研究でわかってきた。自分の最期は自分で決め、食べたいものを食べ、好きなことをして生きることが望ましい。高齢者に期待されるのは、人生の先輩として、子や孫が安心して最期まで生きることができると背中で生き方を伝えることである。

限られた時間内に、多彩な内容が詰め込まれていたために、参加者にはやや消化不良の感もあったが、自分の健康は医者任せにせず、自分の価値観に合ったライフスタイルを維持することの大切さは十分に伝わったように思われる。かつては在宅での看取りが当たり前であったが、いつの間にか医療機関に取り込まれてしまった。在宅医療を可能にするためには、自身が確固とした死生観を持つことと、それをサポートする医師の存在が不可欠であることを痛感させられました。(袖井孝子 記)

7. JAASロゴマーク、会員番号入り特製名刺作成のお願い

エイジレスフォーラムでもご案内しておりましたJAAS特製名刺を作成、ご活用いただきたく再びご案内いたします。

3か年計画で大テーマを掲げてのイベントの催行や研究会の活動等を通じて、当学会の存在意義は一定の評価をいただいているとはいえ、会員数はほぼ横這いの状況が続いております。法人名に「シニア」を冠しておりますが、より若い世代の方々にも加入していただき、より活発な活動展開に結び付けたいと存じます。

ついては、現在の会員諸氏に日頃の活動で当学会ロゴ入り名刺(会員番号、@jaas.jpのメールアドレスも付与)をご利用いただくことにより、当学会の存在を喧伝していただきたく、作成のご発注をお願いいたします。

詳細は添付のチラシをご参照ください。

事務局のオープンは年末12月25日(月)迄、年始は1月10日(水)からとなります。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX:(03)5778-4728
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>